

白隠禅師250年遠諱記念

特別講演会

入場無料

正受老人と白隠

— 悟りを超えた白隠さん —



8月19日(土) 14時～16時30分(開場13時30分)

講師

花園大学名誉教授・元学長
西村惠信師

会場

飯山市文化交流館なちゆら
〒389-2253 飯山市大字飯山1370-1

定員

500名

主催 臨濟宗妙心寺派 共催 飯山市教育委員会

正受老人と白隠

— 悟りを越えた白隠さん —

「臨済宗中興の祖」と称される白隠慧鶴。今日の臨済宗は、そのほとんどが白隠禅師の流れを汲んでいます。それほど偉大な仏道者を打ち出した師匠こそ道鏡恵端、いわゆる正受老人なのです。

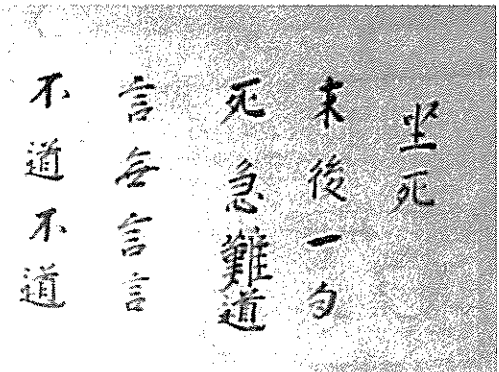
正受老人の弟子・宗覚の勧めにより正受庵を訪れた白隠。正受老人は来庵した白隠の慢心を見ぬき、山門から上ってきた白隠を蹴落としてその慢心を打ち砕きました。しかし、正受老人が白隠の心の中に見たものは、思い上がりの心だけではありません。鍛えがいのあるこの人物こそ、仏の教えを正しく受け継ぎ、きっと広めていくことができる人物であろう、と見てとったのです。自分の慢心を

見ぬかれた白隠は、「私はまだまだ修行が足りない。正受老人のもとで、もっと修行をして、本当の悟りを得よう」と心に固く誓ったのです。そして、後に新たな悟りを開き、日本の歴史にその名を大きく残すこととなります。

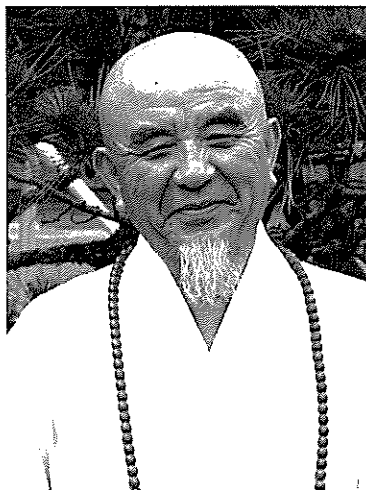
正受老人との出会いがなければ白隠禅師はなく、白隠禅師なくして今日の臨済宗はないことを思えば、信州飯山は禅にとって実に因縁の深い地であることが分かります。

今回は、花園大学元学長・同大学名誉教授の西村恵信師により、「正受老人と白隠」という演題でご講演いただき、皆様と共に学びを深める場としてまいりたいと思います。

正受老人 略年表			
西暦	和暦	年齢	ことごと
1642	寛永19年	1	正受老人 飯山城の中で生まれる
1660	万治3年	19	飯山城主松平忠俱に従い、江戸に出る。その後、東北庵主至道無難禅師の弟子になり、「恵端」の名を授かる。
1661	寛文元年	20	無難禅師より、印可を受ける。
1666	寛文6年	25	正受庵を建てる。
1676	延宝4年	35	無難禅師が74歳で亡くなり、飯山に戻った後に正受庵で母と共に暮らし始める。
1708	宝永5年	67	4月 白隠禅師、正受庵で修行生活に入る。8ヶ月後に悟りをえて、松蔭寺に帰る。
1721	享保6年	80	正受老人、亡くなる。遺偈(ゆいげ)「坐死」を残す。



正受老人辞世の句「坐死」



講師／西村恵信(にしむら えしん)

1933(昭和8)年、滋賀県生まれ。2歳にして出家、臨済宗妙心寺派の僧籍に入る。

花園大学仏教学部(禅学専攻)卒業後、南禅寺専門道場入門。柴山全慶老師に就いて参禅修行を積む。1960~61年、米国ペンシルヴェニア州ペンデルヒル宗教研究所に留学し、キリスト教を研究。1970年、京都大学大学院文学研究科(宗教学専攻)博士課程修了。以来、母校・花園大学の教員となり現在に至る。1993年、論文『己事究明の思想と方法』によって、愛知学院大学より文学博士の学位を受ける。元花園大学学長(2001~2005年)、前(公財)禅文化研究所所長(2005~2016年)。

著書に『己事究明の思想と方法』、『キリスト者と歩いた禅の道』、新版『白隠—地獄を悟る』(以上、法蔵館)、『無門関』(岩波文庫)、『西田幾多郎宛て鈴木大拙書簡』(岩波書店)、『躍動する智慧』(中央公論新社)、『無門関プロムナード』、『禅坊主の後ろ髪』、『禅語に学ぶ生き方。死に方。』(以上、『公財』禅文化研究所)、『よい子に育つ仏のことば』(小学館)、『禅の体験と伝達』(ノンブル社)、『一休』(創元社)、『禅語を読む』(角川選書)、『鈴木大拙の原風景』(大法輪閣)ほか多数。



飯山市文化交流館なちゅら

〒389-2253 飯山市大字飯山1370-1

TEL 0269-67-0311 FAX 0269-62-0054

開館時間 9:00-22:00(火曜日休館)

○徒歩でお越しの方

JR北陸新幹線 飯山駅より徒歩5分

○車でお越しの方

上信越自動車道 豊田飯山ICより車で約15分

※駐車場台数に限りがあるため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。満車の際は隣接する市営駐車場(有料)をご利用ください。